

おかげさまで5周年 多くのアーティストがみのりある活動を

関西で活動する芸術・文化団体や個人を、市民や企業の寄付で支援するアーツサポート関西(ASK/事務局 関西・大阪21世紀協会)は、今春5周年を迎えました。おかげさまでこれまでの寄付の累計は1億2,000万円に達し、100件を超える助成を行ってきました。現在、さまざまな分野のアーティストが、皆さまのご支援でみのりある活動を行っています。今後も一人でも多くのアーティストを支援するため、そしてこの取り組みを未来につなげていくため、引き続き皆さまのご支援・ご協力をお願いします。

2019年度は総額1,050万円を23事業に助成

公募助成の審査の結果、総額1,050万円を、美術・デザイン、音楽、舞台芸術、伝統芸能の4分野23事業に助成することが決まりました。申込総数は71件で、採択率は約3.1倍。選ばれた活動はどれも高い芸術性を備え、将来性が期待されます。

採択事業の紹介

音楽(個人：岩井コスモ証券 ASK支援寄金助成)

■ 事業者：谷本沙綾(たにもと さあや/ヴァイオリニスト)

活動概要 ▶ 国際アカデミーやコンクールなどへの参加(2019年4月~2020年3月)

相愛大学器楽科特別演奏コースに在籍する谷本さんは、小学5年生の時より昨年度まで、兵庫県立芸術文化センターの佐渡裕さん率いるスーパーキッズオーケストラに8年間所属し、東北や熊本などで震災復興支援の演奏会など、国内外のツアーに参加してきました。昨年、国内最高峰の全日本学生音楽コンクール高校の部で見事第1位に輝いたほか、第19回大阪国際コンクール弦楽器部門 Age-H ファイナル第2位(最高位)をはじめ、数々のコンクールで上位入賞を果たしてきました。2019~2020年は、ヴァイオリン演奏技術のさらなる向上を目指し、オーストリア(ザルツブルグ)やポーランド(ナウエンチェフ)の夏期国際アカデミー、中国・珠海市「若い音楽家のためのモーツァルト国際コンクール」など、海外のセミナーやコンクールへの継続的な参加を予定しています。ASKはその経費などを助成することで、関西を中心に世界で活躍する谷本さんの活動を支援します。



谷本沙綾さん

舞台芸術(個人)

■ 事業者：柳沼昭徳(やぎぬま あきのり/劇作、演出家)

活動概要 ▶ 烏丸ストロークロック『まほろばの景』再創作など(2019年12月~2020年3月)

柳沼さんは、近畿大学文学部芸術学科在籍中の1999年に、劇団「烏丸ストロークロック」を旗揚げ、以来、京都市を拠点に活動。新作を「消費」する小劇場界の流れに異を唱え、一つの題材に対して数年にわたり様々な角度からアプローチした短編を上演し、それを積み重ねて長編に昇華させるスタイルによって、今、大きく注目されています。2017年には仙台市市民文化事業団主催による、東日本大震災をテーマにした短編『まほろばの景』を上演。以後、現地で神楽の復興に携わる人たちや山岳信仰などを丹念に取材した短編を連作し、2018年に京都でその長編版を上演して反響を呼びました。今回は兵庫、三重、東京、広島で、その再創作編を上演します。東日本大震災によって見ず知らずの者同士が利他的に助け合う姿を目にした主人公が、さまざまな人との関係を通して人生を変化させていくドラマで、ASKはその上演にかかる経費などを助成します。



柳沼昭徳さん

©松原豊



『祝・祝日』(2018)

©相沢由介

伝統芸能(個人)

■ 事業者：菊央雄司(きくおう ゆうじ/邦楽演奏家)

活動概要 ▶ 平家復曲プロジェクト(2019年1月~2020年12月)

菊央さんは1989年に五代目菊原光治さん(三味線、箏)に入門し、その後、菊津木昭さん(胡弓)や今井勉さん(平家琵琶)にも師事。大阪文化祭賞奨励賞(2012年)、第21回日本伝統文化振興財団賞(2017年)など、多くの受賞歴があります。現在、平家物語の語りである平曲の伝承者は、当道(中世から近世にかけて存在した目の不自由な琵琶法師の全国的組織)の流れを組む今井勉さんだけで、伝承曲は全200曲中わずか8曲ほどしかありません。そこで菊央さんは、2019年1月に「平家復曲プロジェクト」を立ち上げ、平家物語のなかでは珍しい大阪ゆかりの『逆櫓』の復曲に取り組んでいます。『逆櫓』は大阪の渡辺橋あたりで義経と梶原景時が口論をする場面。復曲に1年をかけ、2020年12月に大阪で平家琵琶の演奏会を開催する予定です。ASKは、日本音楽の源流の一つである平家琵琶を大阪の地で保存復曲し世界へ発信する活動の経費などを助成します。



菊央雄司さん

2019年度 アーツサポート関西 助成先

岩井コスモ証券ASK支援寄金助成：総額400万円

分野	申請者	活動内容	交付額(万円)
美術 デザイン	石黒 健一	物の価値の不確定さを主題に、異なる文化や歴史の文脈における様々な関係性をインスタレーションとして手掛ける。	30
美術 デザイン	梅田 哲也	廃材の動くオブジェや実験的サウンドアートを手掛け、海外でも活躍する注目のアーティスト。昨年度より継続助成。	40
美術 デザイン	加藤 至	アーティストユニット「ヒスロム」の一人。子供の遊びのような感覚で社会の深層にある規範や暗黙の了解をあぶりだす。昨年度より継続助成。	30
美術 デザイン	川上 幸子	シンプルな幾何学パターンを反復的に描く際に起こるズレによって、視覚的な触覚を喚起する平面作品を制作。	40
美術 デザイン	金 サジ	在日韓国人として生まれ、社会的マイノリティの日常を創作的神話の世界として表現した写真シリーズを制作。昨年度より継続助成。	40
音楽	谷本 沙綾	昨年第72回全日本学生音楽コンクールで第1位を獲得。今後の国際的な活動が注目を集める若手ヴァイオリニスト。海外でのコンクールやマスタークラスへの参加を予定。	100
美術 デザイン	前田 耕平	自身の実体験において人や物との間に起こる予測不可能な状況を映像や立体、写真などで表現。国際的な展覧を視野に海外での活動を予定。	40
音楽	山口 莉奈	注目の若手クラシックギタリスト。国際的な活動を視野に、数多くのコンクールへの出場や演奏会の開催を予定。昨年度より継続助成。	40
美術 デザイン	山西 杏奈	空気を含んだ布や樹脂のような素材感を持つ作品を木彫で制作。木の種類の違いにも意識を向ける新世代の木彫作家。	40

一般助成(交付額順)：総額500万円

分野	申請者 / 活動名	活動内容	交付額(万円)
美術 デザイン	吉田 憲史 「ポストLCC時代のサイトスペシフィックアート」展の開催など	京都芸術センターで「ポストLCC時代のアート展」を開催する。アジアの地理的な枠組みの変容や観光産業信仰などをアートの手法を用いて批評的に浮かび上がらせる。	50
美術 デザイン	麥生田 兵吾 作品集「Artificial S」出版など	「Artificial S」と自身が呼ぶ写真理論の実践として、数年にわたり展覧会を開催してきた。今年その集大成として同名の作品集の出版を予定している。	50
音楽	大森 香奈 『大森香奈マリンバコンサート』、関西フィルとの共演など	関西を拠点に国際的に活動するマリンバ奏者。大阪フィルや関西フィルなどの主要オーケストラとの共演多数。	50
音楽	梅本 貴子 CD制作および記念コンサートの開催など	関西フィルハーモニー管弦楽団首席クラリネット奏者。ソロとしても積極的に活動。CD制作および記念コンサートの開催を予定している。	50
音楽	清原 邦仁 関西歌劇団でのオペラ活動(出演、演出)など	関西歌劇団を中心に、関西を拠点に活動するオペラ歌手。演出も手掛けるほか、関西におけるオペラの普及活動にも積極的に取り組む。	40
舞台芸術	湯山 大一郎 日本・カナダ合同舞踏公演「TAKER」の開催など	長年「大駱駝艦」の主要メンバーとして活躍。昨年より京都を中心に活動。自主企画による「TAKER」のカナダ公演などを予定している。	50
舞台芸術	岡部 尚子 空晴プロデュース「ボクのサンキュウ(仮)」の演出など	大阪を拠点にホームコメディを得意とする劇団「空晴」を主宰。関西の演劇界を代表する女性演出家・劇作家としてさらなる飛躍が期待される。	50
舞台芸術	武田 力 此花アート部!(仮称)の創設など	民俗史を調査研究しパフォーマンス的な表現を創出する活動を続ける。その独創性と多様性は大きな注目を集めている。	40
舞台芸術	柳沼 昭徳 烏丸ストロークロックの公演活動など	脚本家・演出家として劇団「烏丸ストロークロック」を主宰。時間をかけて形作られる舞台は、立体的・多層的な芸術表現として高い評価を得ている。	80
伝統芸能	菊央 雄司 「平家復曲プロジェクト」など	三味線、琵琶、箏、胡弓の4種の楽器を弾きこなす邦楽演奏家で、この世代のトップランナー。「平家復曲プロジェクト」に取り組み、失われた平家琵琶曲の復曲を行っている。	40

個別寄金助成(交付額順)：総額150万円

寄金名	申請者	活動名	交付額(万円)
八千代電設工業伝統芸能支援寄金	公益財団法人山本能楽堂	「能と遊ぼう!」アートによるこどものための能案内など	50
八千代電設工業伝統芸能支援寄金	公益財団法人大槻能楽堂	青少年に向けてのリニューアル企画(仮)	50
北倶楽部記念寄金	公益財団法人関西フィルハーモニー管弦楽団	第302回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)	45
ソフィア寄金	山本理恵子	平面絵画作品の制作活動	5

寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金

第5回上方落語若手噺家グランプリ決勝戦
桂雀太さんが悲願の優勝

上方落語の継承と若手噺家の育成を目的として、アートコーポレーション株式会社の寺田千代乃社長の寄付で創設された「寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金(500万円)」。今年6月24日、これをもとに「第5回上方落語若手噺家グランプリ」(主催：公益財団法人 上方落語協会)の決勝戦が大丸心斎橋劇場で開催され、桂雀太さん(1977年・奈良県出身)が優勝。決勝戦の審査は、在阪のテレビ・ラジオ局のプロデューサーやディレクター7名によって行われました。

今回は、平成13~17年に入門した若手噺家のうち、予選を勝ち抜いた9名で決勝戦が行われました。雀太さんの演目は古典落語の定番『粗忽長屋』、こみいったストーリーを軽妙に演じ切り、会場を笑いの渦に包みました。

寺田社長から賞金20万円と記念盾を贈られた雀太さんは、「5回目の決勝出場で悲願の優勝を果たすことができとても嬉しい。このコンテストで大いに勉強し、成長させてもらった」と喜びを語りました。また、審査員は「ここ数年で若手噺家の実力がぐっと伸びた。将来が楽しみ」と話されました。決勝戦に進出した噺家は以下の通り。桂雀太(優勝)、笑福亭喬介(準優勝)、桂華紋、桂小鯛、桂佐ん吉、桂三四郎、桂二葉、笑福亭べ瓶、露の紫。(敬称略)



桂雀太さん(賞贈呈式にて)